

宝塚市協働のまちづくり促進委員会 協働のマニュアル検討部会（第1回 第5期・第1回）ご意見一覧（抜粋）

項目	意見（抜粋）
<p>1 活用状況の調査</p>	<p>(1)まち協や自治会とご一緒させていただいた際に、マニュアルを見かけたことがないが、どのくらい活用されているものなのか。→市民協働推進課の窓口で据え置きしており、いつでも見ていただける状態である。各種行事等があった際に配布をお願いしたり、市民説明会を行ったときにもマニュアルの説明とともに配布を行ったりしている。ホームページでも公開しており、一定程度見ていただいているかと思う。まち協の代表になった方については、折を見て、まち協の説明とともに協働の指針やマニュアルについても一定程度説明している。自治会長は1年交代が多いという実情があり、正直なところ、協働の指針やマニュアルを含めてそこまで浸透している状態とはいえない。少しずつでも浸透を図っていくよう、地道にやっていく。</p> <p>(2)積極的にどこかにまとめて配るということではなく、興味のある方が随時持っていく、読んでいただいているという状況かと思う。皆にどれだけ読まれているか、周知されているかについて、今のところはデータをとれていないため、活用状況を調査するというのもありかと思う。</p> <p>(3)コミュニティの会議でマニュアルを説明する機会はほとんどない。進め方として、マニュアルを使っているところはないのではないかと思う。もともと行政の説明会の中から、具体的にほしいという意見があったのではないかと思う。マニュアルを見直すにあたっては、実際にどう活用されているのかアンケートなどでいろいろな意見を整理して、どこに問題点があるのか、変える必要があるのかを考えていきたい。</p> <p>(4)何が何でも活用を押し付ける性質のものではなく、実際に使っているところを目にする機会はあまりないが、自宅で見ていただいているかもしれない。</p> <p>(5)市役所内の調査については、どのような方法が使えるのか、事務局で考えていただければと思う。各団体に対してはどのような調査ができるか、次回までにアイデアが何かあれば言ってもらえたらと思う。</p> <p>(6)マニュアルの活用状況を知るための調査方法や、アンケートを行う場合はその内容などについて、次回までに頭の中でアイデアを練っていただけたらと思う。</p>

宝塚市協働のまちづくり促進委員会 協働のマニュアル検討部会(第1回 第5期・第1回)ご意見一覧(抜粋)

項目	意見(抜粋)
<p>2 事例を通じた検証</p>	<p>(1)マニュアルを見ながら各地域におけるまちづくり計画を作成し、現在は実践に移っているが、マニュアルを横に置きながら作成しなくても、計画の内容はある程度マニュアルに沿っていると感じた。まちづくり計画を今後どう進めていくか、市民協働推進課も含めて1年ごとに評価をする中で、マニュアルに書かれた内容をある程度カバーできるように思う。マニュアル内に「事業計画を作りましょう」という項目があるが、実際にうまく機能していたかどうかについても評価の段階で確認できる。提案だが、2~3月にまちづくり計画の進捗をチェックする際、マニュアルを横に置いてもらえば、その存在意義を認識されるのではないかと。</p> <p>(2)まちづくり計画をチェックする際に協働のマニュアルを横においてチェックしていただくということをまち協代表者交流会で提案していただけたらよいのではないかと。</p> <p>(3)まちづくり計画に絡まない協働も皆さんやられていると思うが、マニュアルどおりにっていないと感じる事例があれば持ち寄っていただき、なぜうまくいかなかったのかを検証しながら、きちんとマニュアルどおりにやればうまくいくのか、それとも、それ以外に問題があるのかを考えていくのも良いかと思う。うまくいっていないと感じる事例があれば、教えていただければと思う。</p> <p>(4)コロナのワクチン接種について、各自治体において色々なやり方があったと思う。行政サイドとして、対象者に向けてワクチン接種をいかにうまく案内できるかということについて、もう少し市民の力を使ったほうがよかったのではと感じる。デジタル化に伴いホームページに色々な情報が出ているが、見ることができない人をどうカバーするかなど、行政側もかなり悩んだと思う。市民と相談しながらやっつけば、スムーズに進むような気がする。行政側が市民を使うという視点でも、マニュアルを見ていくのはどうか。</p> <p>(5)コロナ禍において様々な課題が地域の中でも出てきたと思うので、どのように協働が進められたのか、事例を持ち寄りながら検証していくのもありかと思う。</p> <p>(6)事例を持ち寄りながら整理をしていけば、色々なものが見えてくるのではと思う。</p> <p>(7)様々な協働の取組事例を通じて、マニュアルが活かされているかを検証していくという話があった。まちづくり計画に関連するものと、それ以外の事例の中でうまくいっているかどうかというもの。</p>

宝塚市協働のまちづくり促進委員会 協働のマニュアル検討部会(第1回 第5期・第1回) ご意見一覧(抜粋)

項目	意見(抜粋)
<p>3 新しい動きで行われる協働</p>	<p>(1)最近ネットワーク型で動いている方と付き合い機会が増えてきているが、行政と協働するということになると、おそらく行政側はとて難しいのではないかと思います。組織でなく、実績もない、継続性もこれからやってみないとわからないという人達と行政が協働できるかといわれると、なかなか難しい部分があるのではないかと。新しいタイプの方が動き始めている中で、どうやって協働をすればいいのか、議論のひとつにしていただけたらありがたい。</p> <p>(2)目的の達成のために動くというタイプではなく、楽しければ良いというノリでやっている面白い協働が出てきている。こういった動きをマニュアルの中でどう評価するのか、どのようにお互いがパートナーとしてやっていけるのかというところは、今までとは違うのかなと思っている。</p> <p>(3)ここ数年新しい動き(特に40歳代以下、ネットワーク型)が出てきているので、そういう方々を今のマニュアルの書きぶりで受け止められるのかどうか。必要であれば、内容の書き足しや事例紹介の追加を行うか検討していく。</p>
<p>4 協働が進んだ次のステップ</p>	<p>(1)自治会、生協、社協など、それぞれに活動されているが、誰もやっていない分野については、まち協がしっかり見ないといけないという気持ちでやっている。まち協とは関係なく活動をしていても、「まちに役立っているなら良い」という括りでいけたら。</p> <p>(2)まち協として、情報をもらったら「ここでこういうことをしていますよ」と広報などで知らせていくような、個々でやっているものをつないでいくのも私達の役割かと思う。</p> <p>(3)実際に各地域で協働が進みだしたら、次にどうするかという話も必要ではないかという提案があったと受け止めた。いろんな方が常時動いているところは任せていたら良いが、地域全体として見たとき、欠けている部分がないかをチェックしたり、埋め合わせたりしていくのがまち協の役割ではないかという話でいうと、協働が様々なところで出てきはじめてきたら、誰かが全体のマネジメントをしていく必要があるという話かと思う。そして、そういうものをつなげていく、いわゆる中間支援的な役割というのも協働がどんどん進んだ次のステップとしては必要ではないかというご意見かと思う。現行のマニュアルの中では「どうやって協働を進めていくか」に注力していたが、協働の事例が増えてきた暁には、次のステップの記述も必要ではないかというご提言をいただいた。</p>

## 宝塚市協働のまちづくり促進委員会 協働のマニュアル検討部会(第1回 第5期・第1回) ご意見一覧(抜粋)

項目	意見(抜粋)
5 ターゲット	<p>(1)40歳代以下の人達が社会的な仕事をしていくとき、まず目の前で起こったことに対して自分なりにどう動かせるかを考え、一人ではできないので仲間を探していく、そして活動に繋げるという方法の「ネットワーク型」で動いている。ネットワーク型で動いている若い方にとっては、「協働とは」などと言わなくても、既にやっていること自体が協働である。マニュアルがなくても当たり前のように協働ができるタイプの方と、やはりマニュアルが必要な方、今までマニュアルを作って動かしてきた中で、どういうタイプの方にしっかりと読んでほしいのかが見えてくるといいのかなと思った。</p> <p>(2)協働をあまり意識しなくてもできる方はそのまま動いてもらったかどうかというのが私の意見である。逆に、意識してもらわないと協働ができない方にしっかりと読んでもらい、内容を理解していただくということが重要かと思う。「まずは市役所の職員ではないか」ということでこのマニュアルが動き出した。その方の動きをうまくまち協で取り入れてもらったり、手が組めるところは組んでもらったりすることができればよい。</p>

宝塚市協働のまちづくり促進委員会 協働のマニュアル検討部会(第1回 第5期・第1回) ご意見一覧(抜粋)

項目	意見(抜粋)
6 その他	<p>(1)最初の「発意」の部分の内容が地域のことだけに限定している感じがしたので、例えば、現在であればデジタル化などの話も課題として出るのはないか。今後、もう少し広げていってはどうかと思った。後の部分については、出てきた課題についてマニュアルを横に置きながら進めていけそうな感じがする。</p> <p>(2)協働を進めるためには、まずは自分がどれだけつながりを持っているのかということが一番重要ではないかと思う。マニュアルの中でも、ひとつの重要な柱として「つながりをどう作っていくか」を挙げている。協働でなくてもつながりはできる、イベントなど楽しい試みの中でも、つながりさえできておけば、いざとなったら動けるのではないかというような、そういうフレーズがあっても良いのではと思った。</p> <p>(3)継続性ということではなく、ピンチの際、一時的にどうやって凌いでいくかということがポイントで、そこを乗り越えて通常に戻っていく中で、他のシステムに乗り換えていっても良いというノリも必要かなということである。必ずしも同じ活動が継続的に繰り返していくということばかりではないのかなと思う。ピンチのときは一時的な「凌ぐ」という協働も必要であることが、コロナ禍や様々な災害時において見えてきたのではないか。その点もマニュアルに記載できるのではないかと思った。</p> <p>(4)法人格もない、ただ単に市民が集まってじわじわ続けているという形で活動している組織と、行政とが協働のパートナーになれるかということ。私自身は協働だと思っているが、市側が私達のことをどのように認識しているのかなと思った。</p> <p>(5)事業者との連携のようなものが、これから宝塚でももっと出てくると良い。いわゆる社会貢献活動ではなく、本業・本職で協働ができ、地域活動・市民活動がどんどん展開できるという方策が増えていくと良いのかなと思う。</p>